

山口大学医学部では、平成28年4月の山口大学大学院医学系研究科の改組に併せて、講座名称を変更いたしました。

旧名称(分野)	新名称(講座)	旧名称(分野)	新名称(講座)
器官解剖学	器官解剖学	消化器病態内科学 →	消化器内科学
機能神経解剖学 →	神経解剖学	器官病態内科学	器官病態内科学
生体機能分子制御学 →	分子細胞生理学	病態制御内科学	病態制御内科学
システム神経科学 →	神経生理学	神経内科学	神経内科学
プロテオーム・蛋白機能制御学 →	システムズ再生・病態医学	呼吸器・感染症内科学	呼吸器・感染症内科学
医化学	医化学	高次脳機能病態学	高次脳機能病態学
分子薬理学 →	薬理学	小児科学	小児科学
病理形態学	病理形態学	器官病態外科学	器官病態外科学
分子病理学	分子病理学	消化器・腫瘍外科学	消化器・腫瘍外科学
ゲノム・機能分子解析学	ゲノム・機能分子解析学	整形外科学	整形外科学
環境保健医学	環境保健医学	皮膚科学	皮膚科学
環境統御健康医学 →	公衆衛生学・予防医学	泌尿器科学	泌尿器科学
法医・生体侵襲解析医学 →	法医学	眼科学	眼科学
免疫学	免疫学	耳鼻咽喉科学	耳鼻咽喉科学
医学教育学	医学教育学	放射線医学	放射線医学
		放射線治療学 →	放射線腫瘍学
		産科婦人科学	産科婦人科学
		麻酔・蘇生・疼痛管理学 →	麻酔・蘇生学
		脳神経外科学	脳神経外科学
		歯科口腔外科学	歯科口腔外科学
		臨床検査・腫瘍学	臨床検査・腫瘍学
		救急・総合診療医学	救急・総合診療医学
		医療情報判断学	医療情報判断学
		臨床薬理学	臨床薬理学

各講座での教育や研究の伝統を受け継ぎつつ、医学の進歩や社会の要請にも柔軟に対応し、山口大学医学部医学科は進化し続けていきます。

今年度の保護者見学会は、平成29年2月19日(日)に開催を予定しております。

対象となる4年生及び5年生の保護者の方へは、ご案内を同封いたしておりますのでご確認ください。

保護者の皆様には、新入生保護者会以降、宇部市の医学部(小串キャンパス)にお越しになる機会も少ないと思われるので、この機会に学生がどのような環境の中で学んでいるかをご覧ください。また、医師臨床研修制度の説明のほか、医師のキャリアプランについて質疑応答も予定しております。

ぜひ多くの方にご参加いただけますようお願いしております。

- 日時** 平成29年2月19日(日) 12時30分~16時頃(12時から受付)
- 場所** 医学部講義棟C 第3講義室
- 対象** 医学科4年生及び5年生の保護者
- 内容** カリキュラム解説、学生支援の取り組み、医師臨床研修制度の説明、施設見学 など



山口大学医学部  
医学科後援会

会報 H28.12  
Vol.10

特集1 「医学教育学」という新たなニーズ  
特集2 医療人としてキャリアと使命の継承を



Yamaguchi University  
Faculty of Medicine

## 文武両道への支援を

後援会の会長として昨年の会報に記載しました3点について、反省と総括をさせて頂きたいと思ひます。

まず一点は後援会の皆さんにとって最も関心のあると思ひます医師の国家試験についてです。昨年の第109回の国家試験の山口大学の合格率は82.1%で、「国立大学では最下位でした。私も医学部に在籍中は、講義で必ず、国家試験だけは合格して欲しい。医師の国家試験に合格しない医学士は、ただの人であるので、最低限国試には合格するように」と学生を叱咤激励しました。常日頃より、教職員の皆さんに喫緊の課題として国試の対策を最優先して頂きたくお願いしてきました。今年の110回の国家試験の合格率は新卒者では117人の受験者で113人が合格し、合格率96.6%で、国立大学では4番目でした。既卒者と併せますと135人の受験者で124人の合格と合格率は91.9%ですが、合格者数は124人と全国で3番目に多く、学生本人は勿論、教職員の並々ならない努力のお蔭だと感謝します。益々頑張ってください合格率100%にして頂きたくと思ひます。国家試験に合格することは医学生にとって最低限の義務だと思ひます。

また、私は国家試験の合格率も重要だと思ひますが、入学した学生の何%が6年間で国家試験に合格することが出来るかがさらに重要だと考えています。私達の学生時代にはなかったCBTやOSCEの国レベルでの試験があります。山口大学はCBTの結果が平成26年79.45(全国平均77.6)、平成27年78.9%(全国平均77.7%)で、OSCEの結果は平成26年89.6%(全国平均88.4%)、平成27年88.9%(全国平均87.2%)で、全国平均よりは少し良いのですが、不十分です。留

CBT：Webを利用する医療系大学間共用試験 OSCE：実技による客観的臨床能力試験

医学科後援会会長

石原 得博



年生は2年生16人と6年生8人と多く、全学年709人中30人です。学生本人の問題ですが、父兄の皆さんも現状を把握して欲しいと思ひます。

2点目として山口大学の小串地区の教育ゾーンで、特に医学科学生に対する講義棟が古くなっている件です。私が学部長時代(平成14年～18年)から話には出ていましたが、今年度は山口大学では上位で文部科学省に計上しています。国の概算要求事項の内示時期は12月です。国も厳しい経営状況にあります、来年1月には良い結果が開けることを期待しています。

3点目としては、山口大学で研修する卒業生が非常に少ないことです。やはり、人がいなくては、研究、教育、臨床と沢山のスタッフを必要とする大学としては、先行きが不安ですが、一時期の残留率の悪い時期を乗り越えV字回復しているようです。

来年、約半世紀ぶりに山口大学が第69回西日本医科学生総合体育大会(通称西医体)を引き受けます。文武両道は死語になりかけていますが、勉強のみでなく運動も大切です。日頃の練習の成果を発揮できる西医体は医学生にとっては最も価値のある大会です。精神的のみでなく、経済的支援が必要ですので、後援会としても来年度の予算に計上したいと思ひます。

最後になりますが、山口大学医学部に入学して良かったと思えるように、家庭と緊密な連絡をとりながら学生の福利厚生の手助けができればと思ひます。

教職員および父兄の皆さん宜しくお願いします。

## ご挨拶

本年4月から山口大学医学部長、医学科長、大学院医学系研究科長を拝命しております谷澤です。保護者の皆様には改めまして謹んでご挨拶申し上げます。

山口大学医学部医学科は既に72年の歴史を持ち、5,600人あまりの卒業生は全国各地、海外で活躍中です。その歴史と伝統を受け継ぎ、さらに発展させるべく教職員一同、教育、研究、診療に取り組んでいます。在学学生、保護者の皆様にも山口大学医学部医学科に誇りをもって勉強に取り組み、また、支えて頂きますようお願い申し上げます。

医学教育はひとつの転機を迎えようとしています。平成13年に医学教育モデルコアカリキュラムが定められ、その後何回かの改訂を経て医学教育の標準化が図られています。さらに来年度の改訂が予定されています。同時に、医学教育の国際標準化の流れの中で、山口大学のカリキュラムもそれに対応すべく、いくつかの改善を実施中です。臨床実習の早期化、長期間化もそのひとつです。今年度の5年生から臨床実習は4年生の2月から開始しており(従来は5年生の4月から)、診療科を一巡した後、5年生の1月からは1診療科あたり6週間、4診療科での選択実習を行います。卒後臨床研修で各科をローテートする場合、8週間単位でローテートすることもある事を考えると、卒前の6週間はかなり長期間である事がご理解頂けると思ひます。実際の診療の場で、より実践的に学ぶことが期待されています。この選択実習は、山口大学医学部及びその関連病院が丸となって良い医師を養成しようという取り組みとして、多くが県内の関連病院でも行われることになっており、山口大学医学部OBの先生方の絶大なるサポートにより行われることもご紹介申し上げます。

実践的教育が重要であるのは勿論ですが、臨床前の基礎医学教

育は、医師としての将来にわたっての基盤を作る上で重要です。3年次の高度自己修学コースはその要のひとつです。自己開発コースとして、約5ヶ月、医学部内の研究室で研究に取り組むほか、毎年10数名がハーバード大学を含む海外の研究室に短期留学しています。これらの学生の多くが公的な助成金を得て留学していることも特筆すべきです。自己開発コースでの成果は、各自、論文にまとめることになっており、国内でも類のないユニークなカリキュラムです。教育の国際化に関しては、今年度から、韓国の医学生を約1ヶ月、迎え入れることが決まっています。

いくつかの先進的な取り組みを行っていますが、現実としては、医学科の卒業生は医師国家試験に合格することが最大の課題です。山口大学医学部の学生は一定以上の能力を持って入学している学生ばかりですので、6年できちんと卒業し、国家試験に合格するように、低学年から「特別指導コース」を設けて課題を持つ学生には特に重点的に指導するほか、6年生では、年に3回、義務的に外部の模擬試験を受験させることにより、全国の中での自分の位置を早い時期から自覚し、着実に学習できるように指導にあたっています。これらの取り組みはさらに強化して、目に見える実績を上げて行きたいと思ひます。

大学生時代は、人格を涵養するための重要な時期でもあります。クラブ活動などの課外活動も促進し、仲間と切磋琢磨する中で医師としての思いやりや協調性を養ってもらいたいと思ひます。そして、山口大学を愛する心を持ち、卒業後は、将来の山口大学医学部のさらなる発展にも是非貢献してもらいたいと願っています。

保護者の皆様には、一層のご協力、ご支援を心からお願い申し上げます。

山口大学医学部医学科後援会顧問

山口大学医学部長、医学科長

谷澤 幸生



## 平成27年度 事業報告

平成27年度の実施事業から主な内容を抜粋してご紹介。

\* 平成28年度も事業継続しています。

### 1.キャンパス間移動用バス運行補助

クラブ活動に参加する1年生送迎(吉田キャンパス⇄医学部キャンパス)のために、バス借上げ費用の一部の補助を継続しています。

これまで各クラブの先輩が後輩を車で送迎することが常態化しており事故等が非常に危惧されてきましたが、成24年度からは、学生自治会及び利用する部活動からの負担金、医学科後援会及び保健学科後援会からの補助により送迎バスの運行を開始しています。

実施期間：平成27年5月～平成28年2月

計 129日 乗車許可証発行数 118名

運行方法：大型バスにより平日週 5日の1日1往復

吉田キャンパス発:月～金曜日 18時 (計 2176名)

医学部キャンパス発:月～金曜日 22時30分 (計 2234名)

### 2.医学教育に関する事業

特別講演会の開催(毎年3回)、臨床実習の開始前に必須となるワクチン接種の自己負担額を軽減する助成、医師国家試験対策として模擬試験受験料の補助を行っています。

### 3.保護者見学会の開催補助

平成24年度から、医学科4年生および5年生の保護者の皆様を対象とした保護者見学会の開催を行っており、見学会では、医学科の学生支援の取組み、臨床研修医制度やマッチングの仕組みについての情報提供と意見交換を行った後、キャンパスツアーとして頌徳碑(しょうとくひ)／献体いただいた方の慰霊碑)やドクターヘリ、スキルアップセンター、地域医療教育研修センター「白翔館」などの見学を行っています。

平成27年度は悪天候のため中止となりましたが、平成28年度も、平成29年2月19(日)の開催にむけて準備を進めています。保護者見学会を通して、山口大学医学部ならびに附属病院への理解を深めていただき、山口大学をはじめとし山口県内での医師定着へ繋がることを期待されます。

### 4.高度学術医育成のための奨学金助成

平成22年度から、文部科学省の特に社会的要請が強い分野の研究医を養成する施策に対応し、大学院への進学を奨励し将来の研究医を要請する目的で「高度学術医育成コース」を医学科に設置しています。

本コースには、高度学術医育成特別プログラム(SCEAプログラム)と高度学術医育成一般プログラム(AMRAプログラム)をもち、学部・大学院教育の一貫システムとして4年生から大学院授業の先取り受講や研究活動を開始することができます。

高度学術医育成特別プログラム(SCEAプログラム)は、履修者のうち年間2名に月額5万円の奨学金制度が用意されており、法医学を中心とする基礎系分野へ進路選択を行った場合には返還が免除されます。

## 高度学術医育成コース

高度学術医育成コースは、2つのプログラムから構成されます。原則学部4年生からの履修となり、研究室に配属され、研究指導を受けることができます。

## 高度学術医育成特別プログラム「SCEAプログラム」

SCEA:Specialy Selected Cutting Edge Academic

社会的要請の強い法医学、病理学等の基礎系分野の研究医育成のため、文部科学省から本学科に設置が認められました。年間2名の履修者に奨学金を貸与しています。

## 高度学術医育成一般プログラム「AMRAプログラム」

AMRA:Advanced Medical Research Academic

基礎、臨床を問わず、研究マインドのある医師・医学者を育成する山口大学独自のコースで、基礎系及び臨床系大学院進学を志向します。

## 医師国家試験受験状況

発表日	新卒者			既卒者			合計		
	受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率
第108回(26.3.18)	92	85	92.4	13	9	69.2	105	94	89.5
第109回(27.3.18)	95	82	86.3	11	5	45.5	106	87	82.1
第110回(28.3.18)	117	113	96.6	18	11	61.1	135	124	91.9



「人に優しく、山口に生き、世界に羽ばたく」  
医学教育を目指して

医学教育学講座  
医学部附属医学教育センター長  
教授 白澤 文吾

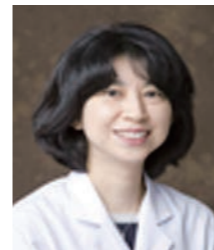
昨年7月より医学教育学講座を担当しています白澤文吾と申します。医学部附属医学教育センター長も兼任しています。後援会の皆様に謹んでご挨拶申し上げます。

私は平成5年に本学を卒業後、第一外科に入局しました。心臓血管外科を専攻し、大学を初めとした県内外の関連病院の勤務を経て、10年前より山口大学に帰学しました。医学教育学講座は、従来のような各々の講座が独立して学生を教育する体系では、これからの学修成果基盤型教育に対応できないことが指摘され、旧医療環境学講座を改組して昨年4月に新設されました。

医学教育学講座のミッションとしまして、「6年間を俯瞰しながら行う医学教育の先頭に立つ」ということになるかと思えます。それ以外にも「境界科目や分野横断科目を実施する」ということ、「卒前卒後のシームレスな医学教育体制の構築」があげられます。また、当講座が中心的な役割を果たしています医学教育センターの業務として、医学入門や臨床推論、臨床実習入門等のテクニカルスキル以外に、ノンテクニカルスキルであるプロフェッショナリズム教育、倫理教育、コミュニケーション教育、多職種連携教育にも力を入れたいと考えています。さらには成績不振者のメンターとしての中心的な役割も果たしていき、医師国家試験の合格率向上はもとより、学生が快適なキャンパスライフを過ごせるように努めていきたいと思っています。昨年度は、成績不振者のための特別指導コースの学生19名中17名が国試に合格し、その結果新卒合格率が国立大学で4位という結果を収めることができました。

現在の医学科には教育課題が山積みです。カリキュラム改変(今年度から臨床実習が52週から67週に拡大)や、「医学教育の分野別質保証のための国際認証受審」等、早急に手をつけなければならない課題が多々あります。また地域の医師不足に歯止めをかけるためには、当然ながら地域で働いてくれる若い医師の確保が最も重要です。それと同時に、世界的に活躍できる医師としての土台を築くことも重要な責務と考えています。さらに、私自身が大切にしたい個人的な思いとして、医学を教えるだけでなく、「学生に最も身近な教授」として、全ての学生が人間力を高められるよう、成長を促していきたく考えています。

表題にございますように講座のキャッチフレーズとして、「人に優しく、山口に生き、世界に羽ばたく」を掲げています。ご子息・ご息女のことでお困りのこと等ありましたら何なりとご相談頂ければと思います。後援会の皆様には、何かとご迷惑をお掛けすることがあるかは存じますが、引き続きご指導・ご鞭撻のほどを宜しくお願い申し上げます。



全ての医療人のキャリア支援のために

放射線腫瘍学講座  
医療人育成センター男女共同参画支援部門長  
医療人キャリア支援室長  
教授 澁谷 景子

医療人キャリア支援室長を拝命しております澁谷景子と申します。後援会の皆様にはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

山口大学医学部附属病院では、学生を含むすべての医療人のキャリア支援のために、平成27年4月より医療人キャリア支援室を設置して運営しています。

男女共同参画を推進するとともに、各々が生き活きと個々のスキルを磨き、一人ひとりの役割にやり甲斐をもって専念できる環境を整備することは当院としての使命であると考えています。

学生時代を含め、一生涯を通じて様々なライフイベントに遭遇するとき、あるいは将来の進路を考えると、戸惑うこと、不安に思うことは多々あると思われませんが、当支援室では男女を問わず、すべての医療人に対し、キャリア設計やワークライフバランス維持へ継続的な支援を行っていくことを目的に活動しています。

具体的な活動としては、キャリア相談に関する対応、キャリア教育啓発のためのセミナーの定期開催、webや広報誌によるキャリア支援情

報の提供、職場環境向上のための備品設備の整備等に至るまで多岐にわたっていますが、特にセミナーについては、多種多様な講師をお招きし、実際の体験を踏まえながら参加者に分かりやすく講演いただいております。医学生の皆さんにも各自のキャリアを考えるうえで非常に有意義なものになっています。

各々が志と目標をもって、医療人としてのキャリアと使命を継続していけることが、山口県全体の医療を支え、さらに発展し続けるための大切な鍵となります。医学生の皆さんが様々なライフスタイルに対応し、生き活きと輝き続けられるように、卒前・卒後を通じてできる限りの支援を行ってまいります。

皆様からのご提案やご要望、ご意見が、当支援室の活動をより実りあるものに発展させていただけるものと考えています。ぜひ当支援室を最大限にご活用いただくとともに、多くの方々にご参画いただければ幸いです。どうぞよろしくお願い申し上げます。



広報紙「News letter」



定期セミナー「キャリアアップセミナー」

先輩医師からのメッセージ

キャリア支援室では「こんにちは!先輩」と題して各方面で活躍されている先輩医師の方々からのメッセージを紹介しています。人生の様々な局面で思い悩みながらも素晴らしいキャリアを築いて来られた先輩方から、後輩の皆さんへ期待や激励の思いが込められた素敵なメッセージになっています。医学生の皆さんにとってロールモデルとなる先輩も多数見つかると思います。ぜひご一読ください。

～先輩医師からのメッセージより一部抜粋～

「医師というものは、『社会の財産』であるということ。社会が私たち医師に何を期待し、どこで最も必要とされているか、目を開いてよく見て自分の進むべき道を決定してください。後輩たちにはそうあってほしいと心から願います。」

先輩医師からのメッセージについては、以下のwebページをご覧ください。

URL: <http://mpros.med.yamaguchi-u.ac.jp/obog.php>

医療人キャリア支援室に関する詳細は、下記にお問い合わせください。

山口大学医学部附属病院医療人キャリア支援室

TEL:0836-85-3137 / FAX:0836-85-2356

E-mail: [mpros@yamaguchi-u.ac.jp](mailto:mpros@yamaguchi-u.ac.jp)

URL: <http://mpros.med.yamaguchi-u.ac.jp/>

# 第72回 医学祭 Heart and Soul

## ～医新伝心～



第72回医学祭実行委員会  
委員長

村重 皓斉

11月4日から6日の3日間で、第72回山口大学医学祭が開催されました。テーマとして掲げた「Heart and Soul ～医新伝心～」は、全員が心から楽しめる医学祭にしたい、医学祭を通じて様々な物事に全身全霊で取り組んで欲しい、との思いで決定いたしました。幸いにも三日間を通して天候に恵まれ、非常に盛り上がった医学祭となりました。

前夜祭である金曜日には1年生が主体となって行われる「クラブ対抗選手権」があり、ダンスやコント等が行われました。本祭1日目の土曜日は学生LIVEで幕を開けました。その後、アーティストの「Aqua Timez」がLIVEを行い、会場はお客さんで満員となり、素敵なLIVEとなりました。また、Mr.&Missコンテストや様々な障害、お題をクリアして一番を決める鉄人レースも行われ、例年以上の盛り上がりを見せたように思いました。また、元広島東洋カープ1軍トレーニングコーチの石橋秀幸先生が来てくださり、楽しく身体を動かしながら健康管理・エイジングについてお話していただきました。会場には老若男女問わず様々な方が足を運んで下さり、盛況となりました。本祭2日目の日曜日には、軽音楽部が演奏を行い、朝からたくさんの方が

ご来場されました。2日目の目玉でもあるお笑いLIVEでは「千鳥」「くまだまさし」「藩飛礼」の3組が来てくださり、会場を爆笑の渦に巻き込みました。その後の企画では本学からダンスサークルの「AMO」とアカペラサークルの「SAS」をお呼びし、新企画では会場を巻き込んだクイズが行われ、BINGOではカードも完売となり、例年以上の来場人数でした。大きなトラブルもなく、3日間の医学祭は大盛況に終わりました。

この医学祭を通して一番感じたことは、お客さんも学生も笑顔だったことです。テーマである「Heart and Soul」に則り、来場された方々も、運営する学生も、全員が心から楽しめる医学祭を作り上げることが出来たと、しみじみと実感しております。

最後になりますが、今学祭に関してご協力をいただきました方々に心から感謝申し上げます。至らぬ点は多々あったことと存じますが、皆様方のおかげをもちまして、無事医学祭を終えることが出来ました。本当にありがとうございました。

今後とも医学祭に関しまして、ご理解ご協力のほど、よろしくお願ひ致します。



# サークル 活動紹介



学生自治会長  
医学科4年

土肥 聖未

本年度、山口大学医学部学生自治会で会長職を務めさせていただきます、医学科4年の土肥聖未です。

学生自治会とは、山口大学医学部に所属する全学生からなる組織です。活動内容は主に、学生主体の組織・団体(部活やサークル)の統括、国家試験委員など各種委員会への補助等、学生全体に関わる企画の実施です。

山口大学は非常に部活動が盛んで、約8割の学生が部活に所属しています。本年度、西日本医科学生体育大会では男子バスケ部・空手道部・剣道部女子が見事優勝を果たしました。特に男子バスケ部は3年連続優勝や、剣道部女子は創部初の優勝など山口大学は目覚ましい成績を残しています。またスポーツだけでなく、国際医療研究会では部員が海外へ行き、その経験や感情を共有することで国際医療だけでなく様々な文化・多様な考え方について学ぶ団体もあります。

また自治会公認サークル Code orangは心肺蘇生法を始めとしたBLS(一次救命処置)の普及を目的としており、医学祭などで市民への普及活動を行っております。この様に文化・体育系・勉強会と活動は多岐におよび、学生自治会は今後もこのような学生の主体的活動を様々な側面から支援していきたいと思っております。



他の自治会活動としては、今年度も吉田小串間の平日バス運行を実施しております。医学部生の8割以上が部活動に所属しており一年生から部活動に参加していますが、医学部キャンパスが本学と離れているため1年生の送迎が必要でした。バス運行以前は平日の送迎を2年生以上の学生で行っておりましたが、これは送迎を行う学生の負担が非常に大きかつ交通事故の危険性を伴う状態でした。この状況を改善するため5年前より試験的にバス



運行事業を始め、4年前からは1年を通じた運行を行うことができるようになりました。この活動は、大学を始めとする様々な方のご支援あってのことです。活動に対するご理解・ご支援に対しまして、この場を借りて厚く感謝申し上げます。

最後に、近年2023年問題や新専門医制度などにより医学教育を取り巻く環境が変わりつつあります。既に山口大学医

学部でもカリキュラム・時間割等の大幅な変更がなされている段階です。この変更中、学生から挙がる意見も多く、この声を拾い纏め、1つの意見として大学に届けるのも学生自治会の使命です。今年度は授業や試験に対するアンケートを実施し、学生が現状に対してどのように感じているのかを大学に届けることができたと考えています。今後もより綿密な調査を行い、学生が主体的に考え、大学と共に、より一層勉学に励み、各々の主体的活動も行えるような環境を整えていきたいと考えております。

山口大学医学部のように学生自治会活動を活発に行っている大学は全国をみても多くありません。このように活動させていただけるのも先生方が学生の意見に耳を傾けてくださっているからです。恵まれた環境であると日々感謝しております。私たち学生もこの環境を無駄にせず良き医師になれるよう勉学にも一層精進して参ります。今後とも学生自治会をどうぞ、よろしくお願いいたします。